

認知症分科会（第3回）の概要

日時：12月10日（木）15:00-17:00

場所：県庁第2庁舎 第29会議室

参加者：吉野委員（8期委員）、乾委員（8委員）、

藤田和子氏、松本豊子氏、米村功氏、

金谷佳寿子氏（東部パートナー、鳥取市認知症地域支援推進員）

西古美奈子氏（西部パートナー、若年認知症サポートセンター）

寺谷課長補佐、濱口係長

概要：第8期計画の文案について意見交換を行った。12月23日までに詳細の意見などいただき、修正版は年内に作成して送付し確認してもらう。

1月にはパブリックコメント開始。

【指標等についての意見】

事務局から、「成果指標」、「活動指標」について説明。指標に「本人の活動」に着目した内容を加える。

＜追加する指標（案）＞

成果指標 地域を良くするための集まりにおいて認知症当事者が参加・活動した回数

活動指標 市町村他活動団体への働きかけ回数

【主な意見】

| | |
|------|--|
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標に「認知症サポーター数」があるが、これが目標とすると今更感がある。サポーター養成は内容を見直して、本人のメッセージ発信や可能なら本人に参画してもらうことが望ましいが、キャラバンメイト協会がカリキュラムをすっかり決めていて制限がある。 ・ここで挙げるべき目標としては、「本人が施策に関わる機会を持つ市町村数」とするべき。 ・チームオレンジは、国が新しく出してきた仕組みなのでやむを得ない。 |
| 乾委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・啓発は必要であり、認知症の軽度の方がサポーター養成講座に参加することは良いと思う。 ・銀行や交通機関など見守りネットワーク活動に参加する業種についてもニーズはあると思う。 |
| 藤田氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・誰にとっての成果なのか？ 認知症の人が本当に安心して暮らしていける社会になったかどうか成果であり、施策側の自己満足では意味がない。 ・認知症施策において、数値目標はそぐわないと思う。もし入れるのであれば、「本人ミーティング」など本人の意見が反映されている場に着目した指標にするなど。 ・進行性の病気であり、会を継続することも人数をキープすることも簡単ではない。 |
| 吉野氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・本人が、例えば第8期計画を自主的なグループの中で検証する回数など、施策形成に本人がどのように関わったかを指標とするべき。 |
| 金谷氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者が参加した集まりの回数など。 |
| 藤田氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・当事者が参加した集まりの中で、地域を良くするための活動にしては。 |
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・それが良いと思う。これを1番に追加しよう。あとの2つはそれでいい。 |
| 寺谷補佐 | <ul style="list-style-type: none"> ・その活動をどのように把握するのか？ |
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・件数把握は難しくないと思う。市町村への照会でいいのでは。 |
| 金谷氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・推進員も頑張っているので、把握可能だと思う。 |

【内容についての意見】

事前配布した文案について意見交換。十分に読み込めていないので、12月23日まで意見聴取の期間を設ける。

【主な意見】

| | |
|------|--|
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・「わだや小路」のオレンジカフェの写真が掲載されているが、写真は新しいものに変えて欲しい。 ・オレンジカフェも変わってきている。内容が重要ではあるが、実施主体も、大山町では専門職中心、済生会など病院主体のカフェもある。病院が実施していることに意味がある。ページを割いて事例紹介して欲しい。 |
| 寺谷補佐 | <ul style="list-style-type: none"> ・写真は更新します。 ・認知症部会の様子や、希望大使の写真なども載せたいと考えているので、ご協力をお願いします。 |
| 松本氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・p1について気になる表現がある。パートナーが欠かせないわけではないし、ステップアップ講座を受けた人がパートナーになるわけではない。 |
| 藤田氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じくp1について、「発信できる認知症の本人」という表現。「生き生きと暮らす」など変えた方が良い。 ・p3について、「本人が喜んで集まれる」は、「本人にとって有意義な」など。カフェが良い情報、良い出会いがある場であれば良い。 ・イ下段の「パートナーとなり得るような・・・」について、パートナーは、誰かにマッチングされるものではない。「強化」も違うと思う。 ・p6について、アルツハイマーのことが協調されすぎている。レビー小体型認知症など他の疾患の方もあり、修正が必要。 ・それと、本人ミーティングの写真も入れて欲しい。 |
| 乾委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・p6については、「早くから治療を受け・・・服薬することで」とあるが、服薬を強調せず、「適切な治療」などとした方が良い。これには周りの人の適切な対応も含まれる。 |
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬については、あちこちで問題になっている。 |
| 金谷氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・「とっとり方式」による予防が強調されている感ある。「とっとり方式」実施地域では、「認知症になりたくない」という意識が抜けない。 |
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・「認知機能の改善」など記載せず、「「とっとり方式」を始め市町村の取組を推進していく」くらいにしてはどうか。 |
| 藤田氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・p11については、「家族」だけではないと思う。通院支援のために時間給取って対応してくれる人もあり、介護者ではないがそのような人たちの支援についても記載が欲しい。 |
| 吉野委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・p11については、「介護する家族」と考えているが、確かに認知症の人と共に生きるパートナーへの支援を整理して盛り込んでもいい。 |
| 西古氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・p4について、サポートセンターの人員体制は、現在3名なので修正。 ・就労支援の写真も更新したい。 ・にっこりの会は、現在、東・中・西部で隔月開催。 |